



Cisco Unified SIP Proxy ポリシー コマンド

- 「policy time」
 - 「sequence (ポリシー時間)」
 - 「end-time」
 - 「month」
 - 「start-time」
 - 「day-of-month」
 - 「day-of-week」
 - 「time (ポリシー時間シーケンス)」
- 「policy lookup」
 - 「sequence field」
 - 「rule」
 - 「ignore-plus」
 - 「ignore-tel-seperators」
 - 「modify-key」
 - 「sequence header uri-component」
- 「policy normalization」
 - 「header-param add」
 - 「header-param remove」
 - 「header-param update」
 - 「header add」
 - 「header remove」
 - 「header update」
 - 「sip-to-tel」
 - 「sip-to-tel request-uri」
 - 「tel-to-sip」
 - 「tel-to-sip request-uri」
 - 「uri-component update header」
 - 「uri-component update request-uri」

- 「uri-param add」
- 「uri-param add request-uri」
- 「uri-param remove」
- 「uri-param remove request-uri」
- 「uri-param update」
- 「uri-param update request-uri」

policy time

Time-of-Day ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **policy time** コマンドを使用します。時間ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

policy time *time_policy_name*

no policy time *time_policy_name*

構文の説明

time_policy_name 時間ポリシーに割り当てる名前を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

start-time と end-time の値は RFC 2445 iCA1 COS DATE-TIME 形式で入力します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)>
```

次の例では、時間ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no policy time tp1
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
day-of-month	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
day-of-week	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
end-time	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
month	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。

コマンド	説明
sequence (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
start-time	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
time (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

sequence (ポリシー時間)

開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始するには、ポリシー時間コンフィギュレーション モードで **sequence** コマンドを使用します。時間ポリシーからステップを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sequence *sequence*

no sequence *sequence*

構文の説明

sequence 時間ポリシーのシーケンス番号を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ポリシー時間コンフィギュレーション (cusp-config-time)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、時間ポリシー ステップを作成し、時間ポリシー ステップ コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。ポリシー ステップの開始時間と終了時間は次のように設定されます。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)>
```

次の例では、時間ポリシー ステップを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> no sequence 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
day-of-month	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
day-of-week	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
end-time	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。

コマンド	説明
month	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
policy time	時間ポリシーを設定し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
start-time	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
time (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

end-time

時間ポリシー ステップの終了時間を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **end-time** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップから終了時間を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

end-time *end-time*

no end-time

構文の説明

end-time end-time は「HH:MM:SS <月><日><年>」の形式で指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

時間ポリシー ステップはローカルの時間帯を使用します。end-time がいない場合、ポリシー ステップでは end-time に制約を設定しません。end-time が現在の時間より後ではない場合、エラーがスローされます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、2008 年 8 月 1 日の 12:00 まで適用される時間ポリシー ステップを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> end-time 12:00:00 August 01 2008
```

次の例では、時間ポリシー ステップから終了時間を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> no end-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
day-of-month	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
day-of-week	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
month	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
policy time	時間ポリシーを設定し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
sequence (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
start-time	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
time (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

month

時間ポリシー ステップが適用される年の月を設定するには、ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **month** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **month** 値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

month begin month [- *end-month*] [,] (*continue*) [*end-month*]

no month begin month [- *end-month*] [,] (*continue*) [*end-month*]

構文の説明

<i>begin month</i>	時間ポリシー ステップが適用される最初の月を指定します。月の先頭 3 文字として値を入力します。
<i>end-month</i>	(オプション) 時間ポリシー ステップが適用される最後の月を指定します。月の先頭 3 文字として値を入力します。 複数の範囲で追加の終了月を指定して、追加のオプションパラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

last-month 値が入力されない場合、時間ポリシーは、*first-month* 値で指定した月にだけ適用されます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、1 月にだけ有効にする時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> month jan
```

次の例では、1 月から 6 月まで有効になる時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> month jan - jun
```

次の例では、1月、2月、5月、10月、11月、および12月に有効になる時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tpl
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> month jan - feb , may , oct - dec
```

次の例では、時間ポリシーから月の制約を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tpl
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> no month
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
day-of-month	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
day-of-week	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
end-time	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
policy time	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
sequence (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
start-time	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
time (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

start-time

時間ポリシー ステップの開始時間を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **start-time** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップから開始時間を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

start-time *start-time*

no start-time *start-time*

構文の説明	<i>start-time</i>	start-time は「HH:MM:SS <月><日><年>」の形式で指定します。
--------------	-------------------	--

コマンド デフォルト	なし
-------------------	----

コマンド モード	Cisco Unified SIP Proxy ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)
-----------------	--

コマンド履歴	Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	時間ポリシー ステップはローカルの時間帯を使用します。start-time がいない場合、ポリシー ステップは start-time に制約を設定しません。
-------------------	--



(注) このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例	次の例では、2008 年 7 月 1 日の 14:15:20 から適用される時間ポリシー ステップを作成する方法を示します。
----------	--

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> start-time 14:15:20 July 01 2008
```

次の例では、時間ポリシー ステップから開始時間を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> no start-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
day-of-month	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
day-of-week	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
end-time	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
month	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
policy time	時間ポリシーを作成し、ポリシー時間コンフィギュレーションモードを開始します。
time (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

day-of-month

時間ポリシー ステップが適用される月の日付を設定するには、ポリシー時間コンフィギュレーション モードで **day-of-month** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **days-in-month** 値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

day-of-month *begin day* [- *end-day*] [,] (*continue*) [*end-day*]

no day-of-month *begin day* [- *end-day*] [,] (*continue*) [*end-day*]

構文の説明

<i>begin-day</i>	時間ポリシー ステップが適用される月の最初の日付。
<i>end-day</i>	(オプション) 時間ポリシー ステップが適用される月の最後の日付。 複数の範囲で追加の開始日と終了日を指定して、追加のオプションのパラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ポリシー時間コンフィギュレーション (cusp-config-time)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ポリシーが月の最初の日に適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> day-of-month 1
```

次の例では、ポリシーが月の 1 日、10 日、11 日、12 日、13 日、14 日、15 日、および 28 日に適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> day-of-month 1 , 10 - 15 , 28
```

次の例では、時間ポリシー ステップから **day-of-month** 値を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> no day-of-month
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
day-of-week	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
end-time	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
month	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
policy time	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
sequence (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
start-time	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
time (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

day-of-week

時間ポリシー ステップが適用される曜日を設定するには、ポリシー時間コンフィギュレーション モードで **day-of-week** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **day-of-week** 値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

day-of-week *begin day* [- *end-day*] [,] (*continue*) [*end-day*]

no **day-of-week** *begin day* [- *end-day*] [,] (*continue*) [*end-day*]

構文の説明

<i>begin-day</i>	時間ポリシー ステップが適用される最初の曜日を指定します。値は曜日の先頭 3 文字を使用して入力します。
<i>end-day</i>	(オプション) 時間ポリシー ステップが適用される最後の曜日を指定します。値は曜日の先頭 3 文字を使用して入力します。 複数の範囲で追加の開始日と終了日を指定して、追加のオプションのパラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力する必要があります。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ポリシー時間コンフィギュレーション (cusp-config-time)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ポリシーが特定の週の月曜日にだけ適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> day-of-week mon
```

次の例では、ポリシーが特定の週の月曜日、水曜日、木曜日、および金曜日に適用される時間ポリシー ステップを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> day-of-week mon , wed - fri
```

次の例では、時間ポリシーから `day-of-week` 値を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tpl
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> no day-of-week
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>commit</code>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<code>day-of-month</code>	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
<code>end-time</code>	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
<code>month</code>	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
<code>policy time</code>	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<code>sequence</code> (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
<code>start-time</code>	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。
<code>time</code> (ポリシー時間シーケンス)	時間ポリシーで適用する時刻を設定します。

time (ポリシー時間シーケンス)

時間ポリシー ステップが適用される時刻を設定するには、ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション モードで **time** コマンドを使用します。時間ポリシー ステップに割り当てられた **times-in-day** 値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
time begin time [- end-time] [ , ] (continue) [end-time]
```

```
no time begin time [- end-time] [ , ] (continue) [end-time]
```

構文の説明

<i>begin-time</i>	ポリシーの開始時間 (GMT) を指定します。時間は HH:MM:SS の形式で入力されます。
<i>end-time</i>	ポリシーの終了時間 (GMT) を指定します。時間は HH:MM:SS の形式で入力されます。 複数の範囲で追加の開始時間と終了時間を指定して、追加のオプションのパラメータを指定できます。複数の範囲を入力する場合、カンマとダッシュを使用して範囲を指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力する必要があります。

コマンドデフォルト

なし。

コマンドモード

ポリシー時間シーケンス コンフィギュレーション (cusp-config-time-seq)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

時間の値は、グリニッジ標準時 (GMT) 形式で入力されます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、時間ポリシーで時刻を設定し、午前 9:00 から 午後 5:00 まで有効にする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time-seq)> time 09:00 - 17:00
```

次の例では、時間ポリシーから **times-in-day** 値を削除し、時間ポリシーを 1 日中有効にする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy time tp1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> sequence 1
se-10-0-0-0(cusp-config-time)> no time 09:00 - 17:00
```

time (ポリシー時間シーケンス)

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
day-of-month	時間ポリシーで適用する月の日付を設定します。
day-of-week	時間ポリシーで適用する曜日を設定します。
end-time	時間ポリシー ステップの終了時間を設定します。
month	時間ポリシーで適用する年の月を設定します。
policy time	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
sequence (ポリシー時間)	開始時間と終了時間を使用して Time-of-Day ポリシーのステップを設定し、シーケンス コンフィギュレーション サブモードを開始します。
start-time	時間ポリシー ステップの開始時間を設定します。

policy lookup

ルーティングの検索ポリシーを設定し、ポリシー検索コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **policy lookup** コマンドを使用します。検索ポリシーからフィールド シーケンス特性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

policy lookup *policy-name*

no policy lookup *policy-name*

構文の説明

policy-name 検索ポリシー名を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定し、検索コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)>
```

次の例では、検索ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no policy lookup p1
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
key-modifier	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
rule	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。
sequence field	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
sequence header uri-component	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

sequence field

検索ポリシーのフィールドシーケンス特性を設定し、シーケンス フィールド コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション モードで **sequence field** コマンドを使用します。検索ポリシーからフィールド シーケンス特性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sequence sequence-number table-name field {in-network | local-ip-address | local-ip-port | remote-ip-address | remote-ip-port}
```

```
no sequence sequence-number
```

構文の説明

sequence <i>sequence-number</i>	検索ポリシーのシーケンス番号を指定します。これは、検索ポリシーを実行する順序を表します。
<i>table-name</i>	route table コマンドを使用して設定されたルート テーブル名を指定します。
field	フィールド特性を指定します。 <i>In-network</i> : 着信ネットワーク名 <i>Local-ip-address</i> : 受信ローカル IP アドレスのアドレス <i>Local-ip-port</i> : 受信ローカル IP アドレスのアドレスとポート <i>Remote-ip-address</i> : リモート送信側の IP アドレスのアドレス <i>Remote-ip-port</i> : リモート送信側の IP アドレスのアドレスとポート
<i>in-network</i>	着信 SIP ネットワーク名を指定します。
<i>local-ip-address</i>	着信 SIP ネットワークの受信ローカル IP アドレスを指定します。
<i>local-ip-port</i>	受信ローカル IP アドレスとポートを指定します。
<i>remote-ip-address</i>	リモート送信側の IP アドレスを指定します。
<i>remote-ip-port</i>	リモート送信側の IP アドレスとポートを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション (cusp-config-lookup)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、SIP 以外のヘッダー関連情報を使用するルート テーブルとその検索キーで検索ポリシーを設定します。このコマンドは、検索ポリシーのキー修飾子とルールを設定するシーケンス フィールド コンフィギュレーション サブモードを開始します。サブモードのコマンドが設定されていない場合、プロキシはデフォルトのルールを使用し、キー修飾子は使用せずに設定されます。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定し、シーケンス フィールド コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)>
```

次の例では、検索ポリシーからフィールド シーケンス特性を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> no sequence 8
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
key-modifier	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
rule	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

rule

検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **rule** コマンドを使用します。検索ポリシーからルールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

rule {**exact** | **prefix** | **subdomain** | **subnet** | **fixed length**} [**case-insensitive**]

no rule {**exact** | **prefix** | **subdomain** | **subnet** | **fixed length**} [**case-insensitive**]

構文の説明

exact	指定したテーブルのキーの完全一致を検索ポリシーで検索することを指定します。
prefix	最も長いプレフィックスの一致を検索ポリシーで検索することを指定します。
subdomain	テーブルのキーの最も長いサブドメインを検索ポリシーで検索することを指定します。
subnet	テーブルのキーの最も長い IP アドレスを検索ポリシーで検索することを指定します。
fixed length	キー全体ではなく、キーの文字の固定数が検索されることを指定します。
case-insensitive	(オプション) サブドメインの一致を使用する場合、このオプションは、一致で大文字と小文字を区別しないことを指定します。その結果、要求に nonSIP request-URI が含まれる場合、検索は失敗しません。ドメイン名の一致は通常は大文字と小文字を区別するため、この設定が必要になることもあります。

コマンド デフォルト

exact ルーティング アルゴリズムが使用されます。

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (cusp-config-lookup-seq)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

検索ポリシーで使用できるさまざまなアルゴリズム ルールのその他の情報は次のとおりです。

- **exact**

この検索の種類は、文字列の一致ルールを使用して実行されます。検索フィールドは、指定したルート テーブルのルートのキーと一致する必要があります。

- **prefix**

この検索の種類は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーに対して、最も長いプレフィクスの一致を実行します。たとえば、次のようになります。

検証する要求の一部に「5550100」という値が含まれ、指定したルート テーブルのルートに「555」というキーがある場合、一致があります。同じテーブルに「55501」というキーの別のルートがある場合、これも一致し、こちらの方が優先されます。一致するキーの桁数が多いためです。一致は、数字と任意の文字列の両方で実行できます。

- **subdomain**

この検索は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーに対して、Request-URI（完全修飾ドメイン名または IP アドレス）のホスト部分と一致します。



(注) ドメイン名の一致では大文字と小文字が区別され、最も詳細な一致が優先されます。IP アドレスの一致は完全一致である必要があります。要求に **nonSIP request-URI** が含まれる場合、この検索は失敗します。このエラーを回避するには、**case-insensitive** キーワード オプションを使用します。

- **subnet mask**

この検索は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーに対して、指定した Request-URI フィールド内の IP アドレスに一致します。

- **fixed**

この検索の種類は、指定したルート テーブルの各ルートに含まれるキーの先頭の n 文字について、完全一致の検索を試みます。例：

Request-URI 内の電話番号が検証され、97395550100 という値を持つとします。一致する必要がある文字数が 3 に設定されている場合、指定したルーティング テーブルのルートに 973 というキーがある場合にだけ、一致が発生します。一致は、数字と任意の文字列の両方で実行できます。



(注) このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、最も長いプレフィクスの一致を検索するように検索ポリシー ルールを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 tl field in-network
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> rule prefix
```

次の例では、キーの最も長いサブドメインを検索し、大文字と小文字を区別しないように検索ポリシー ルールを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 tl header request-uri
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> rule subdomain case-insensitive
```

次の例では、検索ポリシー ルールを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 tl field in-network
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> no rule
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
key-modifier	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
policy lookup	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
sequence field	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
sequence header uri-component	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

ignore-plus

検索ポリシーの属性の値において先頭のプラス記号を無視するよう指定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **ignore-plus** コマンドを使用します。プラス記号を無視しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ignore-plus

no ignore-plus

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (cusp-config-lookup-seq)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

8.5	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン

検索ポリシーの属性の値において先頭のプラス記号を無視するかどうかを指定するには、このコマンドを使用します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次に、このコマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> ignore-plus
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy lookup	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
rule	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

コマンド	説明
<code>sequence field</code>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
<code>sequence header uri-component</code>	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

ignore-tel-seperators

システムにより、検索ポリシーの属性の値におけるすべての RFC 2806 で規定される区切り文字が無視されるように指定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **ignore-tel-seperators** コマンドを使用します。tel 区切り文字が無視されないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ignore-tel-seperators

no ignore-tel-seperators

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (cusp-config-lookup-seq)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
8.5	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

システムにより、検索ポリシーの属性の値におけるすべての RFC 2806 で規定される区切り文字が無視されるように指定するには、このコマンドを使用します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次に、このコマンドの使用例を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 field in-network
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> ignore-tel-seperators
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy lookup	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
rule	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

コマンド	説明
<code>sequence field</code>	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
<code>sequence header uri-component</code>	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

modify-key

検索ポリシーのキー修飾子で一致検出および置換を実行するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードで **modify-key** コマンドを使用します。検索ポリシーからキー修飾子を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modify-key <regex-match> <regex-replace>

no modify-key

構文の説明	regex-match	regex-replace
	正規表現に一致するキー修飾子を指定します。	正規表現を置き換えるキー修飾子を指定します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索シーケンス フィールドおよびシーケンス ヘッダー コンフィギュレーション (cusp-config-lookup-seq)

コマンド履歴 **Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**
8.5 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 検索ポリシーのキー修飾子で一致検出および置換を実行するには、このコマンドを使用します。



(注) このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例 次に、キーワード「yes」を、キーワード「no」で置換する例を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 t1 header request-uri
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)> modify-key yes no
```

関連コマンド	コマンド	説明
	commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
	policy lookup	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
	rule	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。

コマンド	説明
sequence field	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。
sequence header uri-component	検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定します。

sequence header uri-component

検索ポリシーの URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を設定し、シーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション モードで **sequence header uri-component** コマンドを使用します。検索ポリシーから URI コンポーネント シーケンス ヘッダー特性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
sequence sequence-number table-name header {diversion | from | p-asserted-identity |
remote-party-id | request-uri | to} uri-component {host | host-port| param name |
phone | uri | user}
```

```
no sequence sequence-number table-name header {diversion | from | p-asserted-identity
| remote-party-id | request-uri | to} uri-component {host | host-port| param name |
phone | uri | user}
```

構文の説明

sequence <i>sequence-number</i>	検索ポリシーのシーケンス番号を指定します。これは、検索ポリシーを実行する順序を表します。
<i>table-name</i>	route table コマンドを使用して設定されたルート テーブル名を指定します。
header	検索ポリシーを適用できるヘッダーを指定します。
diversion	Diversion ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
from	From ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
paid	P-Asserted-Identity ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
rp-id	Remote-Party-Id ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
ruri	Request-URI ヘッダーに適用する検索ポリシーを指定します。
uri-component	ポリシーを適用できる URI コンポーネントを指定します。
domain	domain URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
param name	URI コンポーネント パラメータ名を指定します。
phone	phone URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
uri	URI 全体に適用する検索ポリシーを指定します。
user	uer URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー検索コンフィギュレーション (cusp-config-lookup)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、検索ポリシーの URI コンポーネント ヘッダー シーケンス特性を設定し、シーケンス ヘッダー コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> sequence 8 tl header request-uri uri-component user
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup-seq)>
```

次の例では、検索ポリシーからヘッダー シーケンス特性を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> no sequence 8
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
key-modifier	検索ポリシーのキー修飾子を設定します。
rule	検索ポリシーのルーティング アルゴリズムを決定するルールを設定します。
sequence field	検索ポリシーのフィールド シーケンス特性を設定します。

policy normalization

正規化ポリシーを作成し、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **policy normalization** コマンドを使用します。正規化ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

policy normalization *policy_name*

no policy normalization *policy_name*

構文の説明

policy_name 正規化ポリシーの名前を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

複数のトークンの正規化手順の順序は次のとおりです。

1. header (オペレーション)
2. header-param
3. tel-to-sip
4. sip-to-tel
5. uri-component
6. uri-param

同じトークンが含まれる正規化手順の順序はオペレーションに基づきます。またその順序は次のとおりです。

1. remove
2. update
3. add



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、p1 という正規化ポリシーを作成し、ポリシー正規化コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)>
```

次の例では、正規化ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no policy normalization p1
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
header-param add	ヘッダー パラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
header-param remove	ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
header-param update	ヘッダー パラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
header add	ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
header remove	ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
header update	ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
sip-to-tel	宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。
tel-to-sip	宛先の TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-component update header	ソース メッセージのヘッダー内にある URI コンポーネント フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param add	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param remove	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param update	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

header-param add

ヘッダー パラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header-param-add** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

header-param add *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name value*

no header-param add *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name*

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
last	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
all	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>header-param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。
<i>value</i>	追加する値を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ヘッダー パラメータ「m」の値が「XX」である最初の Call-Info ヘッダーにヘッダー パラメータを追加する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header-param-add Call-Info first m XX
```

次の例では、ヘッダー パラメータを追加する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no header-param-add Call-Info first m
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
header-param remove	ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
header-param update	ヘッダー パラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

header-param remove

ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header-param-remove** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

header-param remove *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name*

no header-param remove *header-name* {**first** | **last** | **all**} *header-param-name*

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
last	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
all	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>header-param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、Call-Info ヘッダーに含まれるすべての「m」ヘッダー パラメータを削除する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization policy1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header-param-remove Call-Info all m
```

次の例では、ヘッダー パラメータを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization policy1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no header-param-remove From all tag
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
header-param add	ヘッダー パラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
header-param update	ヘッダー パラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

header-param update

ヘッダー パラメータを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header-param update** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header-param update header-name {first | last | all} header-param-name { all |
match-string} replace-string
```

```
no header-param update header-name {first | last | all} header-param-name
```

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
last	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
all	特定のヘッダー パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>header-param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。
<i>match-string</i>	一致するヘッダー パラメータの正規表現文字列を指定します。 all を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換えるヘッダー パラメータの正規表現文字列を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ヘッダー パラメータ「m」の値が「XX」であるすべての Call-Info ヘッダーについてヘッダー パラメータを更新する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header-param-update update Call-Info all m XX
```

次の例では、すべての Call-Info ヘッダーについてヘッダー パラメータを更新する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no header-param-update update Call-Info all m
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
header-param add	ヘッダー パラメータを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
header-param remove	ヘッダー パラメータを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

header add

ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header add** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

header add *header-name* **sequence** *header-sequence-number* {**first** | **last** | **all**} *header-value*

no header add *header-name* **sequence** *header-sequence-number* {**first** | **last** | **all**}

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
sequence <i>header-sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。これは、正規化ポリシーを実行する順序を示します。
first	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最初のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
last	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最後のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
all	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順はすべてのヘッダーに適用されることを指定します。
<i>header-value</i>	ヘッダー値を指定します。

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、P-Asserted-Identity ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header add P-Asserted-Identity sequence 1 first
sip:9735550100@cusp.example.com;user=phone
```

次の例では、P-Asserted-Identity ヘッダーを追加する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1  
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no header add P-Asserted-Identity sequence 1 first
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
header remove	ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
header update	ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

header remove

ヘッダーを削除する正規化手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header remove** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

header remove *header-name* **sequence** *header-sequence-number* {**first** | **last** | **all**}

no header remove *header-name* **sequence** *header-sequence-number* {**first** | **last** | **all**}

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
sequence <i>header-sequence-number</i>	シーケンス番号を指定します。これは、正規化ポリシーを実行する順序を示します。
first	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最初のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
last	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最後のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
all	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順はすべてのヘッダーに適用されることを指定します。

コマンドモード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、最初の P-Asserted-Identity ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header remove P-Asserted-Identity first
```

次の例では、すべての Request-URI ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header remove request-uri all
```

次の例では、すべての P-Asserted-Identity ヘッダーを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no header remove P-Asserted-Identity all
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
header add	ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
header update	ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定します。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

header update

ヘッダーを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **header update** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
header update header-name {first | last | all} {all | match-string} replace-string
```

```
no header update header-name {first | last | all} {all | match-string} replace-string
```

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最初のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
last	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順は最後のヘッダーにだけ適用されることを指定します。
all	特定のヘッダーが複数ある場合、この正規化手順はすべてのヘッダーに適用されることを指定します。
{ all <i>match-string</i> }	指定したフィールドに対する一致に使用する正規表現を指定します。 all を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	指定したフィールドの置換に使用する正規表現を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、最初の Call-Info ヘッダーを更新する正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> header update Call-Info first
<sip:monitor@cusp.example.com>;purpose=call=completion;m=BS
```

次の例では、すべての Call-Info ヘッダーを更新する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no header update Call-Info all
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
header add	ヘッダーを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
header remove	ヘッダーを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

sip-to-tel

宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **sip-to-tel** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sip-to-tel *header-name* {**first** | **last** | **all**}

no sip-to-tel *header-name* {**first** | **last** | **all**}

構文の説明

<i>request-uri</i>	正規化手順を適用できる request-URI を指定します。
<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定の SIP URI が複数ある場合、この正規化手順は最初の URI にだけ適用されることを指定します。
last	特定の SIP URI が複数ある場合、この正規化手順は最後の URI にだけ適用されることを指定します。
all	特定の SIP URI が複数ある場合、この正規化手順はすべての URI に適用されることを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、SIP URI sip:5085550111@example.com を TEL URI tel:5085550111 に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> sip-to-tel From all
```

次の例では、SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no sip-to-tel From all
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
tel-to-sip	宛先の TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

sip-to-tel request-uri

宛先の SIP URI を Request-URI の TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **sip-to-tel request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sip-to-tel request-uri

no sip-to-tel request-uri

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、SIP URI sip:5085551111@example.com を TEL URI tel:5085551111 に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> sip-to-tel request-uri
```

次の例では、SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no sip-to-tel request-uri
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
sip-to-tel	宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

tel-to-sip

宛先の TEL URI を特定の `host-port` 値が指定された SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **tel-to-sip** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tel-to-sip *header-name* {**first** | **last** | **all**} *host-port*

no tel-to-sip *header-name* {**first** | **last** | **all**} *host-port*

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定の TEL URI が複数ある場合、この正規化手順は最初の URI にだけ適用されることを指定します。
last	特定の TEL URI が複数ある場合、この正規化手順は最後の URI にだけ適用されることを指定します。
all	特定の TEL URI が複数ある場合、この正規化手順はすべての URI に適用されることを指定します。
<i>host-port</i>	URI のホストとポートを指定します。このフィールドの形式は、 <code>host:port</code> です。 <code>port</code> は省略可能です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (`cuspc-config-norm`)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、TEL URI `tel:5085550111` を SIP URI `sip:5085550111@example.com` に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> tel-to-sip From all example.com
```

次の例では、TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no tel-to-sip From all
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
sip-to-tel	宛先の SIP URI を TEL URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

tel-to-sip request-uri

宛先の TEL URI を Request-URI の SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **tel-to-sip request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tel-to-sip request-uri *host-port*

no tel-to-sip request-uri

構文の説明

<i>host-port</i>	URI のホストとポートを指定します。このフィールドの形式は、 <i>host:port</i> です。port は省略可能です。
------------------	---

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、TEL URI tel:5085551111 を SIP URI sip:5085551111@example.com に変換する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> tel-to-sip request-uri example.com
```

次の例では、TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no tel-to-sip request-uri
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
tel-to-sip	宛先の TEL URI を SIP URI に変換する正規化ポリシー手順を設定します。

uri-component update header

ソース メッセージのヘッダーに含まれる URI コンポーネント フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-component update header** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
uri-component update header {first | last | all} {user | host | host-port | phone | uri} {all | match-string} replace-string
```

```
no uri-component update header {first | last | all} {user | host | host-port | phone | uri} {all | match-string} replace-string
```

構文の説明

first	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順は最初のコンポーネントにだけ適用されることを指定します。
last	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順は最後のコンポーネントにだけ適用されることを指定します。
all	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順はすべてのコンポーネントに適用されることを指定します。
user	uer URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
host	host URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
host-port	host-port URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
phone	phone URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
uri	URI 全体に適用する検索ポリシーを指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。 all を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、From ヘッダーに含まれるすべての「host-port」URI コンポーネントを更新するポリシー正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-component update header all host-port example.com
```

次の例では、From ヘッダーに含まれるすべての「domain」URI コンポーネントを更新するポリシー正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-component update header all
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

uri-component update request-uri

request-URI に含まれる URI コンポーネント フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-component update request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
uri-component update request-uri {user | host | host-port | phone | uri} {all |
  match-string} replace-string
```

```
no uri-component update request-uri {user | host | host-port | phone | uri} {all |
  match-string} replace-string
```

構文の説明

user	uer URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
host	host URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
host-port	host-port URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
phone	phone URI コンポーネントに適用する検索ポリシーを指定します。
uri	URI 全体に適用する検索ポリシーを指定します。
all	特定の URI コンポーネントが複数ある場合、この正規化手順はすべてのコンポーネントに適用されることを指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。 all を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI コンポーネントの正規表現文字列を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、Request-URI の user 部分に含まれる 9911 を 911 に置き換えるポリシー正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-component update request-uri user 9911 911
```

次の例では、Request-URI の host-port を example.com に置き換えるポリシー正規化手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-component update request-uri host-port all example.com
```

次の例では、Request-URI のコンポーネントを置き換える正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-component update Request-URI
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

uri-param add

ソース メッセージのヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param add** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

uri-param add *header-name* {**first** | **last** | **all**} *uri-param-name value*

no uri-param add *header-name* {**first** | **last** | **all**} *uri-param-name value*

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
last	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
all	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>uri-param-name</i>	正規化ルールが適用される URI パラメータ名を指定します。
<i>value</i>	追加する値を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param add To all user phone
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl  
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-param add To all user
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
uri-param remove	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param update	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

uri-param add request-uri

ソース メッセージのヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param add request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

uri-param add request-uri *uri-param-name* *uri-param-value*

no uri-param add request-uri *uri-param-name* *uri-param-value*

構文の説明

<i>uri-param-name</i>	正規化ルールが適用される URI パラメータ名を指定します。
<i>uri-param-value</i>	URI パラメータに追加する値を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダーに URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param add request-uri user phone
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-param add request-uri user
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

コマンド	説明
uri-param remove	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param update	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

uri-param remove

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param remove** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

uri-param remove *header-name* {**first** | **last** | **all**} *uri-param-name value*

no uri-param remove *header-name* {**first** | **last** | **all**} *uri-param-name value*

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
last	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
all	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>uri-param-name</i>	URI パラメータ名を指定します。
<i>value</i>	削除する値を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param remove request-URI top user
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization pl
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-param remove From all tag
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
uri-param add	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param update	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

uri-param remove request-uri

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param remove request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

uri-param remove request-uri *uri-param-name*

no uri-param remove request-uri *uri-param-name*

構文の説明

uri-param-name URI パラメータ名を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param remove request-uri user
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-param remove From all tag
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。

コマンド	説明
uri-param add	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param update	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定します。

uri-param update

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param update** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
uri-param update header-name {first | last | all} uri-param-name {all | match-string}
replace-string
```

```
no uri-param update header-name {first | last | all} uri-param-name
```

構文の説明

<i>header-name</i>	正規化手順を適用できる SIP メッセージ ヘッダーを指定します。たとえば、From、To、Record-Route、Diversion、Request-URI、P-Asserted-Identity が含まれます。
first	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最初のパラメータにだけ適用されることを指定します。
last	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順は最後のパラメータにだけ適用されることを指定します。
all	特定の URI パラメータが複数ある場合、この正規化手順はすべてのパラメータに適用されることを指定します。
<i>uri param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI パラメータの正規表現文字列を指定します。 all を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI パラメータの正規表現文字列を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param update Route all transport TCP
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-param update To all user
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
uri-param add	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param remove	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。

uri-param update request-uri

ソース メッセージのヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定するには、Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション モードで **uri-param update request-uri** コマンドを使用します。正規化ポリシーから手順を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

uri-param update request-uri *uri-param-name* {*match-string* | **all**} *replace-string*

no uri-param update request-uri *uri-param-name*

構文の説明

<i>uri param-name</i>	ヘッダー パラメータ名を指定します。
<i>match-string</i>	一致する URI パラメータの正規表現文字列を指定します。 all を選択すると、ヘッダー全体が置き換えられます。
<i>replace-string</i>	一致する文字列を置き換える URI パラメータの正規表現文字列を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ポリシー正規化コンフィギュレーション (cusp-config-norm)

コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param update Route all transport UDP TCP
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを更新する正規化ポリシー手順を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> uri-param update Route all transport all TCP
```

次の例では、ソース メッセージ ヘッダー内の URI パラメータ フィールドを削除する正規化手順を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy normalization p1
se-10-0-0-0(cusp-config-norm)> no uri-param update From all tag
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
policy normalization	正規化ポリシーを作成します。
uri-param add	ソース メッセージのヘッダー内に URI パラメータ フィールドを追加する正規化ポリシー手順を設定します。
uri-param remove	ソース メッセージのヘッダー内にある URI パラメータ フィールドを削除する正規化ポリシー手順を設定します。

■ uri-param update request-uri